医政発 0618 第 3 号 平成 26 年 6 月 18 日

都道府県知事 各 保健所設置市長 特別区長

殿

東京都 26. 6.19 286号 台健生

消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する 行為の是正等に関する特別措置法の遵守の徹底について

先般お知らせしたとおり、平成 26 年 2 月に一部の医療機関において、消費税率引上げ分の転嫁を拒否する事案が発生し、公正取引委員会から消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法(以下「法」という。)第 4 条の規定に基づく指導が行われました。これを受けて、同月 26 日付け医政総発 0226 第 1 号により、貴管下の関係機関等に対して、平成 25年 12 月 26 日付け医政総発 1226 第 1 号を再度周知いただくとともに、法の遵守について適切な指導等をお願いしたところです。

しかしながら、この度、別添のとおり、山形市立病院済生館において、医療材料等を納入する事業者に対して、消費税率引上げに対応する約1.5%の値引きを要請する事案が発生し、公正取引委員会から法第6条第1項の規定に基づく勧告が行われました。医療機関に対して公正取引委員会が勧告を行うのは、今回が初めてです。

今般の消費税率引き上げにおいては、消費税の転嫁拒否等の行為(減額、買いたたき等)を禁止するための法を整備するとともに、転嫁拒否等の調査・指導のため、公正取引委員会、中小企業庁では、合わせて 600 名程度の臨時増員が行われているほか、転嫁拒否事案の把握を目的に、中小企業・小規模事業者等全体に対して、悉皆的な書面調査を実施するなど、政府一丸となって、転嫁拒否に係る監視・取締りを実施しているところです。また、公正取引委員会、中小企業庁及び各省庁においては、引き続き、転嫁拒否に対して迅速かつ厳正に対処するとともに、公正取引委員会においては、重大な転嫁拒否行為が認められた場合には、勧告・公表を積極的に行うこととしております。

こうした事情を踏まえ、貴職におかれましては、医療機関における消費税転嫁に関する違反の再発防止の徹底のため、管下の行政機関に対して、平成 25 年 12 月 26 日付け医政総発 1226 第 1 号を改めてご周知いただくとともに、法の遵守について適切に御指導をいただきますようお願いいたします。

医政総発 0 2 2 6 第 1 号 平成 2 6 年 2 月 2 6 日

各 保健所設置市 特別区

衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省医政局総務課長 (公印省略)

消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の 是正等に関する特別措置法の遵守の徹底について

標記につきまして、平成25年12月26日付け医政総1226第1号厚生労働省医政局総務課長通知「消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法の遵守依頼について」により、貴管下の関係機関等への周知、指導等をお願いしたところです。

今般、一部の医療機関において、平成26年4月の消費税率引上げ等に対応するため、 診療材料等を納入する事業者に対して、一律に3%以上の納入価格引下げを要請し、その 一部を受け入れさせる事案が発生し、公正取引委員会の指導が行われました。

貴職におかれましては、貴管下の関係機関等に対し、上記の通知の内容について改めて 御周知いただくとともに、法の遵守について適切に御指導いただきますようお願いします。 (別添資料「地方公共団体が設置する病院等の関係団体に対する要請について」を御参照 ください。)

なお、本通知と同日付けで、厚生労働省医政局長・医薬食品局長通知「医薬品等に係る 消費税率引上げへの対応等について」を都道府県、保健所設置市及び特別区あてお送りし ておりますので、併せて御配慮いただきますようお願いします。

医政総発1226第1号 平成25年12月26日

都道府県 各 保健所設置市 特別区

衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省医政局総務課長 (公、印省略)

消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法の遵守依頼について

「消費税率及び地方消費税率の引上げとそれに伴う対応について(平成25年10月1日閣議決定)」において、消費税率(地方消費税を含む。以下同じ。)を、平成26年4月1日に5%から8%に引き上げることが確認され、消費税の円滑かつ適正な転嫁を確保する観点から、消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法(平成25年法律第41号。以下「消費税転嫁対策特別措置法」という。)が平成25年6月5日に成立し、同年10月1日から施行されました。

消費税転嫁対策特別措置法において、消費税の転嫁に係る様々な特別措置を講じていることから、その内容を解説した下記のガイドラインが公正取引委員会、消費者庁、財務省から公表されるとともに、事業者が消費税転嫁に際し適切な措置を講じるよう、経済産業省、公正取引委員会、消費者庁から関係事業者に対し下記の要請文書が発出されています。

貴職におかれましては、貴管下の関係機関等に対し、消費税転嫁対策特別措置法及び下記のガイドラインが遵守されるよう適切なご指導をいただくとともに、下記の要請文書やパンフレットの周知にご協力いただきますようお願いします。

163

消費税転嫁対策特別措置法のガイドライン

- 〇消費税の転嫁を阻害する行為等に関する消費税転嫁対策特別措置法,独占禁止法及び下 請法上の考え方(平成25年9月10日 公正取引委員会)
- 〇消費税の転嫁を阻害する表示に関する考え方(平成25年9月10日 消費者庁)
- 〇総額表示義務に関する消費税法の特例に係る不当景品類及び不当表示防止法の適用除外 についての考え方(平成25年9月10日 消費者庁)
- 〇総額表示義務に関する特例の適用を受けるために必要となる誤認防止措置に関する考え方(平成25年9月10日 財務省)

経済産業省及び公正取引委員会、消費者庁から関係事業者への要請文書

- 〇「消費税率の引上げに伴う消費税の円滑かつ適正な転嫁について」(平成 25 年 11 月付け 20131008 中第 5 号、公取取第 238 号経済産業大臣、公正取引委員会委員長通知)
- 〇「消費税の転嫁を阻害する表示の是正に関する特別措置について」 (平成 25 年 11 月 15 日付け消表対第 522 号消費者庁表示対策課長通知)

パンフレット

- 〇消費税の円滑かつ適正な転嫁のために(平成 25 年 10 月 内閣官房、内閣府、公正取引 委員会、消費者庁、財務省)
- 〇中小企業・小規模事業者のための消費税の手引き (平成 25 年 10 月 中小企業庁)

地方公共団体が設置する病院等の関係団体に対する要請について

平成26年2月26日公正取引委員会

公正取引委員会は、地方公共団体が設置する病院に対する消費税転嫁対策特別措置 法に基づく調査結果を踏まえて、平成26年2月24日、関係団体に対し、病院を設 置する地方公共団体等が同法の適用対象となること、同法を遵守することを会員に対 して周知徹底するよう要請した。

1 調査結果の概要

- (1) 公正取引委員会は、消費税の転嫁拒否等の行為に対する調査を行ってきたところ、地方公共団体が設置する病院が、本年4月の消費税率引上げ等に対応するため、診療材料等の納入業者に対して一律に納入商品の価格を3%以上引き下げる旨を要請し、これを一部受け入れさせていたという事実が認められた。
- (2) この行為は、消費税転嫁対策特別措置法第3条第1号後段(買いたたき)の規定に違反するものであり、公正取引委員会は、平成26年2月20日、前記(1)の病院を設置する地方公共団体に対し、同法第4条の規定に基づき、引き下げた納入商品の価格を引下げ前の価格まで引き上げるとともに、引下げ時に遡って当該価格を適用すること等の指導を行った。
 - (注) 「診療材料等」とは、注射針、ガーゼなどの医療現場で用いられる消耗品 及び血液等の検査に使用される薬品をいう。

2 要請の概要

前記1の調査の結果、病院を設置する地方公共団体が消費税転嫁対策特別措置法第2条第1項第2号の「特定事業者」に該当し、指導の対象となったことから、公正取引委員会は、平成26年2月24日、公益社団法人全国自治体病院協議会に対し、病院を設置する地方公共団体等が同法の適用対象となること、同法を遵守することを会員に対して十分に周知徹底することを要請した。

問い合わせ先 公正取引委員会事務総局取引部取引企画課 電話 03-3581-3371 (直通)

ホームページ http://www.jftc.go.jp/

- 3 その他の公正取引委員会の対応
- (1) 公正取引委員会では、ホームページ上の「消費税の転嫁拒否等の行為に関するよくある質問」コーナー(下記参照)に病院(地方公共団体が設置する病院等を含む。)の設置者が消費税転嫁対策特別措置法上の特定事業者に該当し得る旨を掲載し、周知を図った(参考「1 消費税の転嫁拒否等の行為に関するよくある質問(抄)」参照)。

「消費税の転嫁拒否等の行為に関するよくある質問」コーナー http://www.jftc.go.jp/tenkataisaku/tenka-FAQ.html

(2) 本年4月の消費税率引上げを控え、これから事業者間の価格交渉がより活発になると考えられる。そのため、公正取引委員会は、今後も、情報収集や調査を積極的に行い、違反行為が認められた事業者については迅速に指導するとともに、重大な違反行為があると判断された場合には、勧告を行い、違反事業者の名称を公表するなど、厳正に対処していく。